

第三者意見



東京都市大学環境学部教授
幸せ経済社会研究所所長
枝廣 淳子

今年度の社会環境報告書は、親しみやすさ、わかりやすさの点で大きく改善しています。インフォグラフィックスや、駅構内や線路など地下の見えないところでの取組や状態もわかりやすく伝えるイラストなどは特に、目で見ても楽しく、わかりやすいページを作っています。そして、多くのページから、東京メトロがいかに「安全」に心を砕いているか、大きな投資と努力を続けているかが伝わってきます。

前回指摘の「グローバル企業としての意識」や「トップの認識」も表明されており、調達方針の設定も大きな一歩です。ひと1人を1km運ぶためのCO₂排出量の改善も、すでに世界トップクラスの環境効率を有している上でのさらなる努力を高く評価します。パーク&ライドなど、地域も巻き込んだ取組の広がりにも大きく期待します。

さらなる改善に向けて何点が述べます。

1つめは、パリ協定の環境経営への統合です。世界中の事業者に大きな影響を与えるパリ協定について、言及はされていますが、「今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」というパリ協定の目標に向けて、どのように自らの中長期目標を考えているのでしょうか。そのための施策をどのように考えているのでしょうか。

「2020年度に向けて総エネルギー使用量を2009年度実績より増加させない」という目標では、時間軸も目標の規模感も不十分な感じが否めません。今後の目標に向けての議論のプロセスを含め、次の報告に反映されることを強く期待します。また、効率改善の継続は必須ですが、それだけでは社会

の要請である大幅な削減は難しいでしょう。大胆で野心的な再エネ導入戦略を検討ください。

2つめは、SDGs(持続可能な開発目標)への取組です。ESG投資の流れもあり、世界的にSDGsの企業経営への統合が重視されています。この報告書では言及がありませんが、自らの取組とSDGsの17目標とのつながりを今後の報告に反映してください。

3つめは、PDCAの見える化を進めながらの、中長期的な課題への着実な取組です。昨年度指摘をしたLGBTや外国人労働者等も含め、「検討中」であったとしても、PDCAのサイクルに乗せていくことで、CSR経営を推進し、その報告を行うことができます。

その他の課題や取組についても、その方針や体制、活動計画(P)などの紹介はあっても、現状や、この1年間の進捗、今後の考え方などの振り返り(CとA)がないものも見受けられます。こここそ、投資家やステークホルダーが知りたい部分です。今後どのような社内外の課題が生じて、着実に取組を進めていく「しくみ」としてのPDCAの確立を期待します。また、振り返りとその報告においては、データだけではなく、その背後にあるくふうや苦労などもぜひ確認し、その学びを次につなげるとともに、報告してもらえればと思います。

2020年のオリンピックイヤーに向けて、国際的なスタンダードでの取組を進め、内外に伝えていくことを強く期待しています。

○ 第三者意見を受けて

枝廣様には、本報告書全体にわたり貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の「安全」への姿勢、調達方針の制定やCO₂排出抑制への取組等をご評価いただきました一方、パリ協定やSDGs等に対する中長期的な視点を含む取組や、各取組のPDCAに関する報告のあり方等について、大変有用なご意見・ご指摘を頂きました。頂いたご意見等をしっかり

と受けとめ、2020年、そしてその先に向けて、国際都市「東京」と社会全体の持続的な発展のために、着実に社会環境活動を推進してまいります。



総務部長
田頭 章継